

Broadcom (AVGO) 投資戦略レポート - AI半導体爆走と期待値飽和

AVGO

判定はWatch（様子見）。AI半導体売上+143%・Q3ガイダンス160億ドルの絶好調決算直後に株価は-11.94%急落。逆DCFが示す織り込み永久成長6.07%と単独顧客32%の集中リスクを検証し、買い場の条件を整理する。

米国株 半導体 AIインフラ カスタムASIC 高成長

公開日 2026-06-05
著者 Investment Research
分析モデル Claude Opus 4.8 (1M context)

investment.kekke-developer.com

本レポートは特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資判断は読者ご自身の責任において行ってください。詳細は本文末尾の免責事項をご参照ください。

作成日

2026-06-05

対象銘柄

AVGO / Broadcom Inc. (NASDAQ・半導体/インフラソフトウェア)

データソース

SEC EDGAR (10-K / 10-Q / 8-K / DEF 14A)、Broadcom IR、Yahoo! Finance、SIA/WSTS、SEMI、Dell'Oro Group、Gartner プレスリリース、FRB・米財務省・Federal Register

レポート概要

AI 半導体売上 +143% の絶好調決算直後に株価が 12% 急落した Broadcom を、5 つの論点で検証します。市場が織り込む期待値の高さ（逆 DCF 永久成長 6.07%）が判定の核心で、総合判定は Watch（様子見）です。

分析モデル

Claude Opus 4.8 (1M context)

株価・配当基準日

2026-06-04 NY 終値 (422.02 ドル)

結論

主目的: グロース ◎ (3~5 年) / 総合: Watch (様子見) / 参考フェアバリュー 302.55 ドル (DCF)・378 ドル (クオリティ) / 損切りライン - (ポジション非取得)

本資料は情報提供のみを目的とし、投資勧誘・投資助言を行うものではありません。投資判断は読者ご自身の責任で行ってください。

AI 半導体が四半期 +143% と爆走する Broadcom は、なぜ好決算の翌日に 12% 急落したのか——「期待値飽和」を軸に、買い場の条件を整理します。

0. 結論

この章で見えてくること

Broadcom の投資判断と、その根拠となる 5 個の論点を 1 行ずつ示します。詳細は § 1 以降の各章で順に検証します。

長期見通し

WATCH

確信度 中

目標株価

302.55

想定保有

6~18か月

業績は絶好調だが現値は超過達成まで織り込み済み、フェアバリューへの調整を待つ局面

スイング見通し

様子見

※2026-06-04 時点

決算ギャップダウン直後の方向性未確定・ボラ収束と405ドルサポート帯の攻防確認待ち

本質はグロース銘柄です。AI半導体の成長を取りに行く目的なら長期で最適な銘柄ですが、現値は将来の「超過達成」まで織り込んでおり、いま買う価格ではありません。配当目的や割安株探しには不向きで、判定は様子見（Watch）、再評価の窓は今後6~18か月です。

業績モメンタム — AI半導体が牽引する過去最高決算、見通しはさらに加速

直近のFY2026 Q2（2026年5月3日締め）は売上221.87億ドル（前年比+48%）^Aと過去最高で、うちAI半導体は108億ドル（+143%）^Aに達しました。さらに次の四半期は全社約294億ドル（+84%）^A・AI半導体160億ドル（+200%超）^Aという見通しが示されています。しかも直近3四半期連続でガイダンスを上回り着地^Aしており、業績の勢いは本物と言えます。

株価とバリュエーション — 絶好調の決算でも下落する「期待値飽和」

現値は422.02ドル（2026-06-04 NY終値、前日比-11.94%）^Bです。好決算の翌日に-11.94%急落^Bした理由は、FY2027 AI売上1,000億ドル目標が据え置かれた^Aことにあります。つまり市場は「目標の達成」ではなく「目標の上方修正」を要求する水準まで期待を積み上げていた、ということです。

構造リスク — 三重の「集中」と成長の一極化

リスクは「集中」に尽きます。以下が同時並行で進んでいる点を、まずご確認ください。

- 顧客集中: 上位5社で純売上の約40%、単独1顧客で32%^A
- 製造集中: 委託製造ウェハの約95%がTSMC（台湾）生産^A
- 地域集中: 中国向け売上17.5%（出荷地ベース）^A
- 成長の一極化: インフラソフトは+9%成長へ鈍化^Aし、AI半導体への依存が進行
- サイクル: AI設備投資サイクル依存の高度にシクリカルな構造^A
- 経営: CEO Hock Tan 74歳への権限集中^A

加えて、インサイダーは6ヶ月で約6.4億ドルの一方向売り越し^Aという経営内部のシグナルも観察されます（大半は事前計画に基づく規律的売却です）。

判定 — Watch (確信度: 中)

論点「AI 半導体の爆発的成長」と論点「カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇」が positive で、事業の質と勢いは申し分ありません。しかしながら、論点「期待値飽和」が高い確信度で negative に立ちはだかり、論点「三重の集中リスク」が下振れ時の増幅器として控えています。したがって、新規の買いは株価の調整完了か、見通し上方修正という新材料を待つのが合理的です。

主要論点 (5 個) :

- 論点「AI 半導体の爆発的成長」(positive) : 3 四半期で 84→108→160 億ドル (計画) と加速 (§ 2 で深掘り)
- 論点「カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇」(positive) : AI 基盤の構造的受益者 (§ 3 で深掘り)
- 論点「期待値飽和」(negative) : 逆 DCF 6.1% 織り込み、判定の決め手 (§ 4 で深掘り)
- 論点「Tan 体制の執行力と AI 連動報酬」(positive) : ただしキーマン依存が対価 (§ 5 で深掘り)
- 論点「三重の集中リスク」(negative) : 顧客・製造・地域の同時集中 (§ 9 で深掘り)

この章のまとめ

- 判定は Watch (確信度: 中)、主な保有目的はグロース、再評価の窓は 6~18 か月
- 論点 5 個のうち positive 3・negative 2 だが、価格面の論点が決め手となり様子見
- 論点連鎖の総合検証は § 10 投資判断で、売買水準の目安は § 7 で扱います

目次

0. 結論
1. 銘柄の現在地
2. 業績 — AI 半導体の爆発的成長
3. 業界・競合 — カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇
4. バリュエーション — 期待値飽和
5. マネジメント・ガバナンス — Tan 体制と AI 連動報酬
6. マクロ・ニュースフロー
7. テクニカル・需給とスイング戦略
8. シナリオ・反証・モニタリング KPI
9. リスク・カタリスト

10. 投資判断

11. 用語集

12. 参考資料

1. 銘柄の現在地

この章で見えてくること

§ 0 結論で示した投資判断の前提となる Broadcom の事業構造、株価水準、財務健全性を 1 章にまとめて確認します。論点「AI 半導体の爆発的成長」の土台となるセグメント構成も見ていきます。

1.1 事業構造 — 半導体とソフトウェアの二本柱

Broadcom は半導体設計とインフラソフトウェアの複合企業です。例えるなら「AI データセンターの配管工事一式と、その上で動く業務ソフトの大家業」を 1 社で営むような構成です。FY2025 通期の売上は 638.87 億ドル (+24%) A で、内訳は半導体ソリューション 368.58 億ドル (58%) A、インフラストラクチャソフトウェア 270.29 億ドル (42%) A となっています。

収益性は突出しています。FY2025 は営業利益 254.84 億ドル (39.9%) A・純利益 231.26 億ドル A で、フリーキャッシュフロー（FCF、本業の現金収支から設備投資を引いた残り）は 269.14 億ドル A に達します。FCF マージン 42.1% A・ROE 約 31.0% A という効率は、米国の大型テック企業の中でも最上位グループです。そのため、§ 4 で見る「市場の高い期待」には相応の理由があります。

一方で、規模の拡大は急速です。売上は FY2024 の 515.74 億ドル A から FY2025 に 638.87 億ドル A へと 1 年で 2 割以上伸びました。ただし、この成長のかなりの部分が AI 半導体という単一ドライバーに依存している点は、§ 9 のリスク評価で重要になります。

1.2 株価・主要指標

現値 422 USD <small>B</small>	PER (実績) 70.2倍	予想 PER (NON-GAAP) 40.2倍
PSR (実績) 25.7倍	配当利回り 0.62%	FCF マージン 42.1%
ROE 31%	売上成長率 (FY2025) 23.9%	

指標群から読み取るべきは「質の高さと期待の高さが同居している」ことです。収益効率は申し分ない一方、株価倍率はピア（同業他社）の中でも高い位置にあり、TTM GAAP ベースの1株利益 6.01ドル A に対して相応のプレミアムが乗っています。だからこそ、業績が良くても「期待を超えられない」だけで株価が下がる構図になりやすいのです。



チャートの右端で大きな窓を開けて下落しているのが、6月4日の決算後ギャップダウンです。値動きの解釈と需給は § 7 で詳しく扱います。

1.3 財務健全性

財務健全性スコアは 88/100 (A 評価) です。内訳は収益性・キャッシュフロー・成長性が満点で、レバレッジ (負債依存度) がやや減点となっています。自己資本比率は 48.9% A で、大型 M&A を繰り返してきた企業としては健全な水準を保っています。したがって、リ

スクが顕在化した場合でも財務がショックの増幅器になる可能性は低いと考えられます。

この章のまとめ

- 半導体 58%・ソフト 42% の二本柱、FCF マージン 42.1% の高効率体質
- 株価倍率は高水準で、「質の高さ」と「期待の高さ」が同居している
- 健全性は 88/100 (A) と良好。§ 2 では成長の主役である AI 半導体を深掘りします

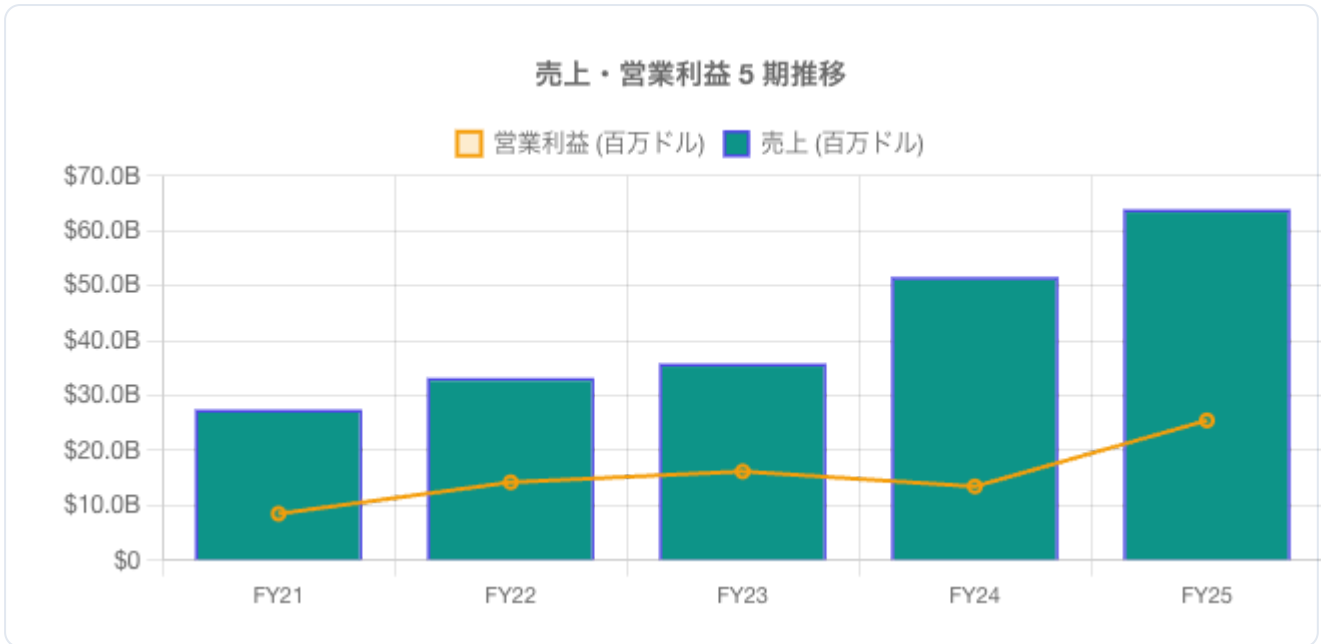
2. 業績 — AI 半導体の爆発的成長 — 四半期 +143%・Q3 ガイダンス 160 億ドル

この章で見えてくること

§ 1 で確認した事業構造のうち、成長の主役である AI 半導体に焦点を当てます。§ 0 結論で positive とした論点「AI 半導体の爆発的成長」を、四半期実績と会社見通しの両面から検証します。

2.1 FY2026 Q2 実績 — 過去最高、ただし二本柱の片方だけが走る

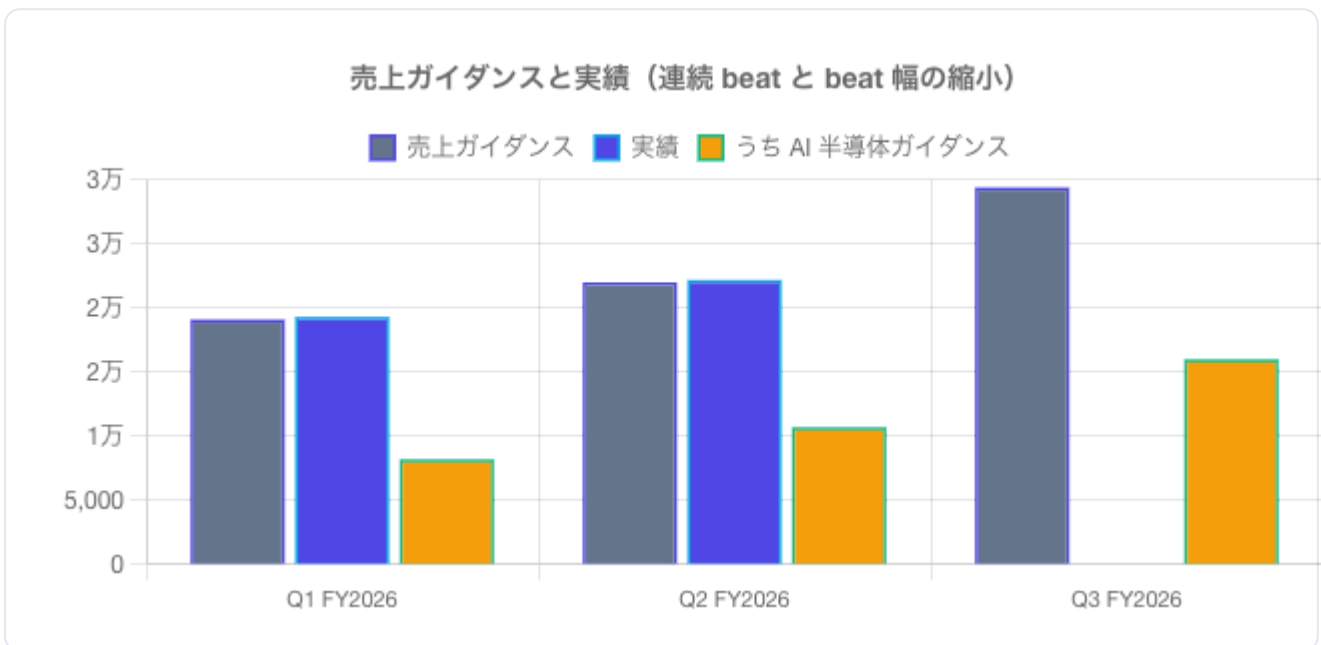
FY2026 Q2 の営業利益は 107.88 億ドル (A) で、営業利益率は 48.6% まで上昇しました。セグメント別では半導体ソリューションが 150.09 億ドル (+79%) (A) と急伸した一方、インフラソフトウェアは 71.78 億ドル (+9%、32%) (A) にとどまりました。つまり、全社 +48% の成長はほぼ半導体側、それも AI 向けが作ったものです。



5 期推移で見ると、VMware 買収で段差が付いた FY2024 以降も増収が続き、FY2026 は別次元の傾きに入ったことが分かります。ただし、ソフト側の伸びが 1 桁にとどまる「二本柱の不均衡」は §9 で扱うリスクの種でもあります。

2.2 AI 半導体の加速 — 84 → 108 → 160 億ドル

AI 半導体売上の四半期推移はこうです。まず FY2025 Q4 に前年比 +74% A、続いて FY2026 Q1 に計画 82 億ドル（前年比倍増） A、Q2 実績 108 億ドル、そして Q3 計画 160 億ドル（+200% 超） A。成長率そのものが四半期ごとに上がる「加速」局面にあり、Q3 の AI 半導体の加速が最大の短期カタリスト A となっています。



会社見通しの信頼性も確認しておきましょう。ガイダンスはこの3四半期で連続して実績が上回りましたが、上回り幅はQ1の+1.1%からQ2の+0.8%へ縮小しています。言い換えると、「会社計画は信頼できるが、サプライズの余地は薄くなっている」状態です。この点が§4の期待値飽和の議論に直結します。

この章のまとめ

- FY2026 Q2は売上+48%・営業利益率48.6%の過去最高決算、牽引役はAI半導体+143%
- AI半導体は84→108→160億ドル（計画）と加速中、次の検証点は9月上旬のQ3決算
- ガイダンスの上回り幅は縮小しており、§4で見る「織り込み済み」リスクの土壌になっています

3. 業界・競合 — カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇 — AI 基盤の構造的受益者

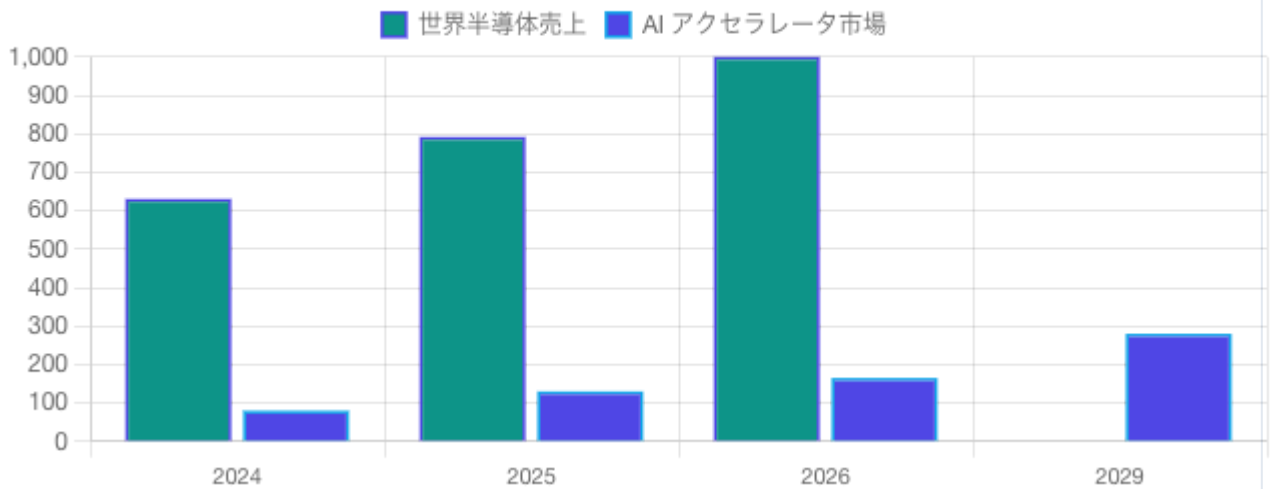
この章で見えてくること

§2の業績加速が「会社固有の追い風」なのか「業界構造に根ざした優位」なのかを切り分けます。論点「カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇」を、市場規模と競争構造の両面から検証します。

3.1 市場の地合い — 半導体市場は史上最大の拡大期

世界半導体売上は2024年6,305億ドル^Bから2025年7,917億ドル(+25.6%)^Bへ拡大し、その中でもAIチップを含むロジックが3,019億ドル(+39.9%)^Bと最大カテゴリです。供給側でも製造装置投資が2025年1,351億ドル(+15%)^Bと伸びており、業界全体が拡大期にあります。

世界半導体売上と AI アクセラレータ市場の拡大

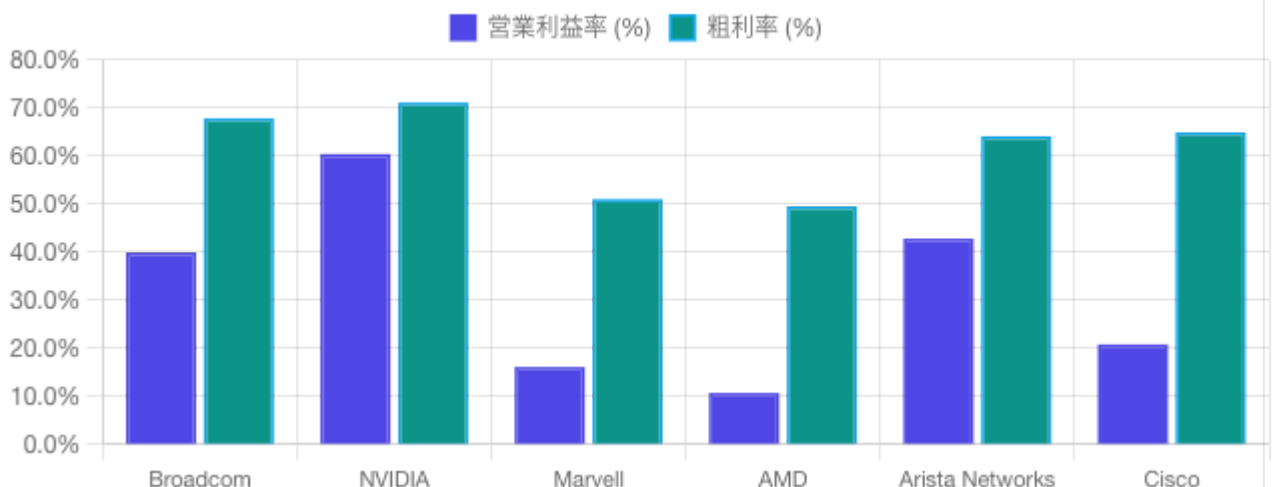


その中で Broadcom が主戦場とする AI アクセラレータ市場は、2024 年約 800 億ドル **B** から 2029 年 2,800 億ドル超 (CAGR 約 28%) **B** への拡大が見込まれています。会社自身も、AI 関連の獲得可能市場を 2027 年に主要 3 顧客向けだけで 600~900 億ドル **A** と提示しており、§ 2 の業績加速は業界全体の構造的な追い風に乗ったものと言えます。

3.2 競争構造 — 2 強のカスタム ASIC と Ethernet の逆転劇

競争の構図を整理します。AI チップには「誰にでも売る既製品 (NVIDIA の GPU)」と「特定顧客専用の特注品 (カスタム ASIC、XPU とも呼びます)」の 2 つの作り方があり、カスタム ASIC は事実上 Broadcom と Marvell の 2 強構造 **A** です。両者の体格差は大きく、営業利益率は Broadcom 39.9% に対し Marvell 16.1% と、収益性で 2 倍以上の開きがあります。

対同業 利益率比較



もう1つの主戦場であるデータセンター内ネットワークでは、歴史的な転換が起きました。2025年にEthernetがAIクラスタ向けスイッチ売上の3分の2超を獲得しInfiniBandを逆転 **B** したのです。AIバックエンド向けスイッチは2025～2029年累計で1,000億ドル超 **B** という市場予測があり、Ethernetスイッチチップの盟主であるBroadcomが最大の受益者となります。NVIDIAがNVLink Fusionで特注品の領域に踏み込む動きは中期的な脅威ですが、約19,000件の特許群と量産実績の壁は短期間では崩れません。

ただし、この優位には裏面があります。前工程ウェハ製造の大部分を外部ファウンドリ（主にTSMC）へ外注 **A** しているため、製造は台湾一極依存です。また、特注品ビジネスの性質上、§0で示した単独顧客32%という集中は構造的に避けにくいものです。優位の源泉と集中リスクが表裏一体である点は、§9で改めて評価します。

この章のまとめ

- AIアクセラレータ市場は2029年に2,800億ドル超へ、業界の追い風は本物
- カスタムASICは2強構造でBroadcomが規模・収益性とも圧倒、Ethernet逆転の最大受益者
- 優位の裏面にTSMC依存と顧客集中が貼り付いており、§4では「この優位にいくら払うか」を検証します

4. バリュエーション — 期待値飽和 — 逆DCF 6.1% 織り込みと決算急落が示す割高警戒

この章で見えてくること

§2～§3で確認した「強い業績と業界優位」に、現在の株価がいくら払っているかを検証します。判定の決め手となった論点「期待値飽和」の核心部分です。

4.1 マルチプル — ピアより高い倍率、AI純度はNVIDIAに劣後

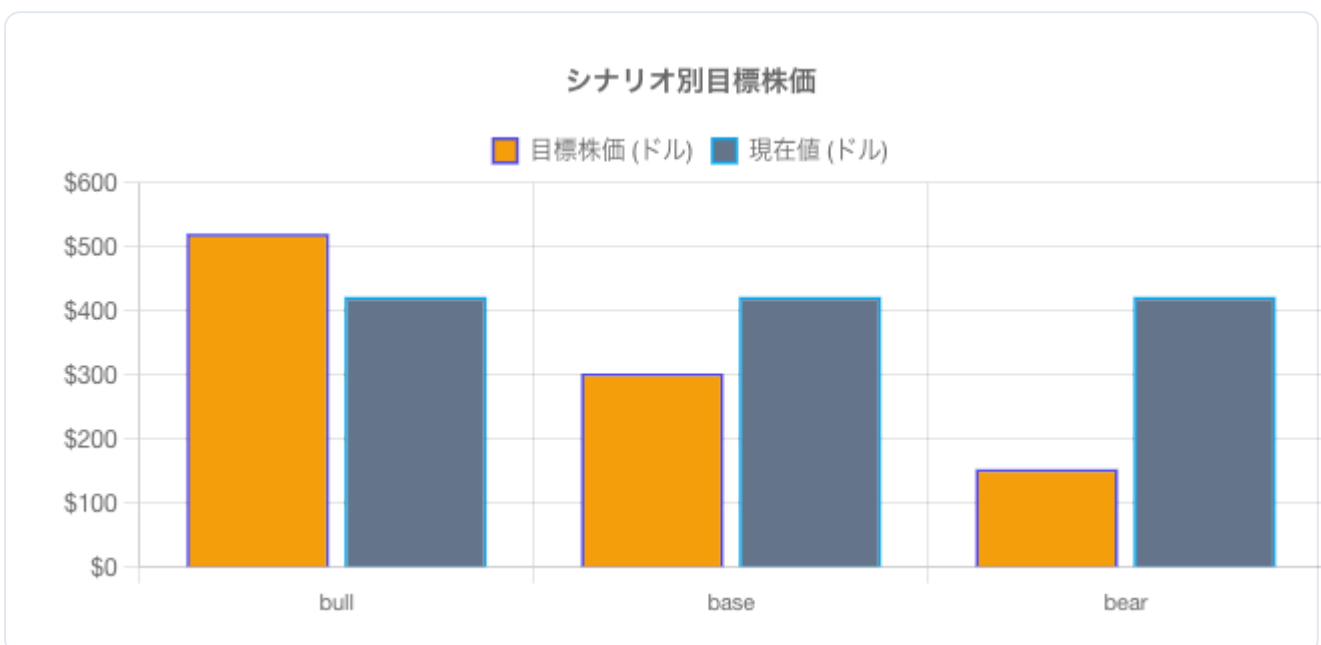
株価倍率から確認します。実績ベースのPER 70.2倍 **B** は、ピアのNVIDIA 44倍・Arista 60倍・Cisco 50倍をいずれも上回ります。Non-GAAPベースのフォワードPER（予想PER）約40.2倍 **B** で見ても、なお高い位置です。AI売上の比率（純度）ではNVIDIAに及ばないのに、倍率では上回るという「ねじれ」が生じており、利益の質に対するプレミアムを考慮しても説明しきれない水準と考えられます。



クオリティ重視の目線でも検証してみましょう。FY2026 予想 Non-GAAP 1 株利益 10.5 ドルに、持続的な AI 成長を許容しつつ規律を保ったフォワード PER 36 倍を当てると、フェアバリューは 378 ドル A となります。つまり、利益の質を最大限好意的に評価しても、現値はおよそ 1 割高いこととなります。

4.2 DCF – 3 つの将来シナリオでの適正価格

DCF（将来のキャッシュフローを現在価値に割り引いて企業価値を測る手法）では、8 年分の FCF 予測と永久成長を置いて 3 シナリオを計算しました。ベースは 302.55 ドル A、AI 需要が長期に持続する強気で 520.37 ドル A、AI 投資の消化不良（デジェスチョン）が来る弱気で 153.15 ドル A です。



3本の線のどこに現値があるかが重要です。現値はベースを28%上回り、強気シナリオだけが現値より上にあります。シナリオを確率加重した目標株価は302.55ドル A（目標株価302.55ドル Aとして§10の判定に採用）となり、現値からは下方の位置です。

4.3 逆 DCF — 市場は何を織り込んでいるか

最後に、視点を反転させます。逆 DCF とは「現在の株価を正当化するには、どれだけの成長が必要か」を逆算する手法です。計算の結果、現値が要求する永久成長率は6.07% Bで、ベース前提の4.0%を2.1pt上回ります。言い換えると、市場は「FY2027のAI売上1,000億ドル目標 Aを達成するだけでは足りず、超過達成して、さらに長期に成長が続く」ところまで織り込んでいるのです。

この構図を市場自身が証明したのが6月4日の急落です。決算の数字は文句なしでしたが、目標が引き上げられなかっただけで株価は12%下げました。料理に例えるなら「満点の食事が出てきたのに、事前の評判が満点超えだったので客が失望して帰った」ような状態です。そのため、いまの株価で買うことは「次も評判超えの料理が出続ける」ことに賭ける行為に近いと言えます。

この章のまとめ

- 実績 PER 70.2 倍はピア最上位、クオリティ目線のフェアバリュー 378 ドルでも約 1 割割高
- DCF はベース 302.55 ドル / 強気 520.37 ドル / 弱気 153.15 ドル、現値はベース +28% の位置
- 逆 DCF は永久成長 6.07% を要求しており「超過達成」が前提。§ 5 ではこの期待を背負う経営陣を見ます

5. マネジメント・ガバナンス — Tan 体制の執行力と AI 連動報酬 — ただし 74 歳キーマン依存

この章で見えてくること

§ 4 で見た「高い期待」を実際に背負う経営陣の実行力を検証します。論点「Tan 体制の執行力と AI 連動報酬」の強みと、対価として抱えるキーマンリスクの両面です。

5.1 実行実績 — M&A の名手が作った複合企業

CEO Hock Tan は在任約 20 年、IPO 以降の累積株主リターンは +34,330% **A** という、米国でも屈指の実績を持つ経営者です。6 件の大型 M&A を 2014~2023 年に消化 **A** してきました。対象は LSI・旧 Broadcom・Brocade・CA・Symantec・VMware と続き、買収先の非中核事業を素早く切り出して利益率を引き上げる手法を一貫させています。Broadcom の高い収益性は、この資本配分の規律に支えられています。

5.2 報酬設計 — AI 売上に連動する巨額インセンティブ

報酬の作り方にも特徴があります。FY2025 の CEO 報酬総額は 2.05 億ドルで、その 98.6% が株式報酬 **A**、変動報酬比率は 96% **A** です。さらに 2025 年付与の PSU は標準で 2.02 億ドル **A**、最大 6.07 億ドルの受け取りには 1,200 億ドルの AI 売上達成が必要 **A** という設計になっています。つまり、経営者の報酬と株主が期待する AI 成長が同じ方向を向いており、利害の一致は強力です。ただし、AI 需要が崩れた場合にはこの巨額報酬自体が批判的になり得ます。

5.3 ガバナンス — 数字は良好、急所はキーマン

形式面のガバナンスは良好です。取締役会の独立比率は 87.5% (8 名中 7 名) **A** で、会長と CEO は分離されています。しかしながら、実質面の急所は人材の薄さです。執行役員はわずか 4 名 **A** のフラット組織で、戦略・M&A・資本配分の権限が 74 歳の Tan に集中 **A** しています。後継者計画は二本立てで整備されているものの、具体的な候補名は非開示 **A** のままです。そのため、経営者プレミアムが一夜にしてディスカウントへ転化するテールリスクを、長期保有では織り込んでおく必要があります。

この章のまとめ

- 在任 20 年・TSR +34,330% の実行力と M&A 規律が収益性の源泉
- AI 売上連動の巨額 PSU で経営と株主の利害は一致、2030 年まで続投が制度的に固定
- 急所は 74 歳・執行役員 4 名・後継非開示のキーマン集中。§ 6 では外部環境の感応度を確認します

6. マクロ・ニュースフロー

この章で見えてくること

§ 2～§ 5 の論点群に効くマクロ要因とニュースの流れを厳選して確認します。鍵は「業績は金利に強いが、株価は金利に弱い」という二層構造です。

6.1 金利・為替 — 業績への波及はゼロ、株価への波及は大

意外に思われるかもしれませんが、Broadcom の業績そのものは金利にほとんど反応しません。変動金利債務は FY2025 中に全額返済され、支払利息への金利波及はゼロ **A** になっており、金利が $\pm 50\text{bp}$ 動いても固定金利債務の公正価値が ± 19 億ドル変動するだけ **A** です。為替も $\pm 10\%$ の変動で連結財務諸表に重大な影響なし **A** と開示されています。

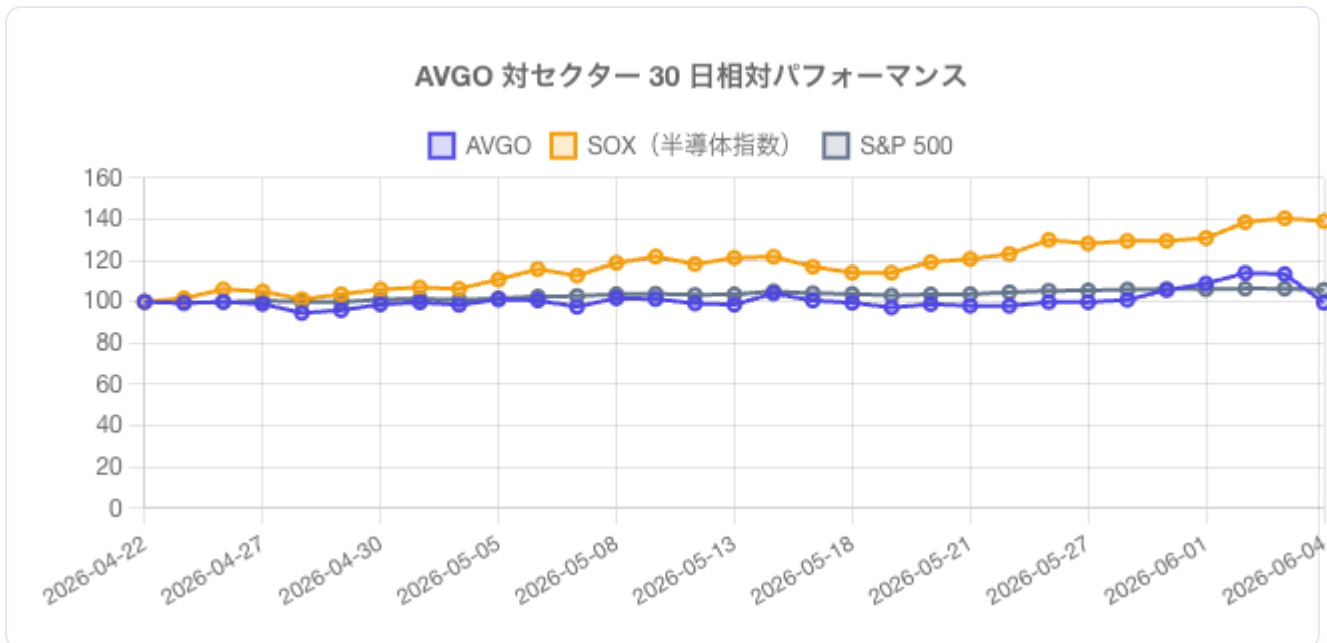
一方で、株価は別物です。3年ベータ 2.03 **B**（市場が 1% 動くとき約 2% 動く感応度）の高ボラティリティ銘柄であり、PER 70 倍は利益の大半が遠い将来にある「長いデュレーション」を意味します。したがって、金利上昇は業績を傷つけずに株価倍率だけを圧縮します。§ 4 の感応度（WACC +50bp で適正価格 -26 ドル前後）は、この経路を定量化したものです。

6.2 地政学・規制 — 緩和と揺り戻しの綱引き

地政学面では、TSMC（台湾）への前工程集中が最大のエクスポージャー **A** です。対中規制は 2025 年 5 月の AI 拡散規則撤回 **A** から 2026 年 1 月の対中ライセンス審査方針の改定（条件付き許可へ転換）**A** まで緩和方向に動いてきましたが、域外適用の動きなど揺り戻しも続いています。中国向け売上 111.55 億ドル（FY2025）**A** を抱える会社にとって、規制は業績よりもセンチメントを通じて株価に効く変数です。

6.3 市場の織り込みとニュースフロー

市場での位置づけも確認しておきます。1年リターン +61.2% **B** は S&P 500 を大きく上回るものの、半導体指数 SOX には 1年で -112.5pt 劣後 **B** しており、直近 30 日でも SOX 対比 -39.4pt **B** と出遅れています。「半導体ラリーの中では出遅れ、絶対水準では割高」という中途半端な位置です。



決算後の報道を発見経路として整理すると、AI 見通しが期待に届かなかったことへの失望を伝える報道 **B** や 急落の 2 大要因 (FY2027 目標据え置き・ソフト鈍化) を整理した報道 **B** が相次ぎました。Google・Meta の追加コミットがあっても目標を引き上げなかった点 **C** と、ソフトウェア成長の鈍さ **B** が市場の不満の中心です。なお、これらの報道は入口にすぎず、本レポートの数値の根拠はすべて SEC 提出書類と公式発表で裏付けています。

この章のまとめ

- 業績は金利・為替にほぼ無風だが、株価はベータ 2.03 × PER 70 倍で割引率に高感応
- 対中規制は緩和と揺り戻しの綱引き、台湾集中は変わらぬ最大の地政学エクスポージャー
- SOX 劣後の出遅れ感と絶対的な割高感が同居。§ 7 ではこの需給を値動きの面から確認します

7. テクニカル・需給とスイング戦略

この章で見えてくること

§ 6 で確認したマクロ・ニュースフローを踏まえ、テクニカル面と需給面から短期の立ち回りを整理します。6月4日の急落が「天井」なのか「押し目」なのかを見極めるための水準を示します。

7.1 値動きの現在地 — ブローオフ的天井の翌日

6月3日に52週高値を付けた直後、6月4日に479.23ドル→422.02ドルへのギャップダウン **A** が発生し、出来高は6,940万株（30日平均の3.2倍） **B** に膨らみました。高値圏での大商い急落は、短期的には典型的な天井形成のパターンです。ただし、中長期の上昇トレンド自体は崩れていません。200日移動平均355.35ドル（現値+18.4%上方） **B** を保っており、長期の基調は上向きのままです。



下値の目安は サポート第1帯 405ドル（次いで50日線 397ドル） **B**、その下は サポート第2帯 355ドル（200日線） **B** です。上値はレジスタンス第1 442ドル **B**、その先にレジスタンス第2 495ドル（52週高値） **B** が控えます。397～405ドルの帯を守れるかが短期の分水嶺となります。

7.2 需給 — 機関は買い、内部者は売り、会社も買い

需給の構図は三つ巴です。機関投資家側は Vanguard が 4.83 億株（約 10.2%）^A、BlackRock が 3.86 億株（約 8.2%、前期比増）^A を筆頭に、上位 4 社合計で 11.84 億株（約 24.9%）^A と買い越し基調です。会社側も FY2026 Q1 に 2,300 万株・78.5 億ドル（平均 340.15 ドル）^A の自社株買いを実施し、2026 年 3 月に新規 100 億ドル枠^A を確保しました。12 月の押し目で大量に買った実績は、340 ドル近辺を会社自身が「安い」と見なした証拠とも読めます。

対照的に、内部者は売り手です。CEO Tan が 6 ヶ月で約 1.01 億ドル^A、共同創業者で会長の Samueli が約 3.78 億ドル^A を売却しました。大半は事前届け出計画（10b5-1）に基づく規律的な売却ですが、買い手側の取締役が 1 名しかいない一方向性は、短期の上値を重くする材料です。

7.3 スイング戦略 — いまは「待つ」が答え

以下のスイングプランはあくまで **2026 年 6 月 4 日時点の目安**であり、市況の変化により随時無効になります。

スイング戦略

様子見

※2026-06-04 時点

現時点でスイングの妙味は限定的です（決算ギャップダウン直後の方向性未確定・ボラ収束と 405 ドルサポート帯の攻防確認待ち）。新規のエントリー水準は提示しません。

様子見とした理由は 3 つあります。第 1 に、急落の翌日で 397~405 ドルのサポート帯の攻防が未確認であること。第 2 に、ボラティリティが拡大しており（ATR 約 22 ドル）、想定リターンとリスクの比率が安定的に 1.5 倍を超える形を作れないこと。第 3 に、442 ドル方向への戻りを狙うにも需給の整理が終わっていないことです。押し目の確認（397~405 ドルでの下げ止まりと出来高の減少）か、442 ドルの回復のどちらかが見えるまで、エントリーは見送るのが合理的でしょう。

この章のまとめ

- 値動きは高値圏の大商い急落で短期天井のパターン、ただし 200 日線上の長期上昇基調は維持
- 需給は「機関と会社が買い、内部者が売り」の三つ巴、短期の分水嶺は 397～405 ドル帯
- スイングは様子見。§ 8 では判定が変わる条件を、シナリオと反証の形で整理します

8. シナリオ・反証・モニタリング KPI

この章で見えてくること

§ 2～§ 7 で深掘りした論点群を 3 つの将来シナリオに織り込み、どの事実が出れば判定が変わるか（反証条件）と、追うべき KPI を一覧化します。

8.1 シナリオ別の論点の効き方

各シナリオで 5 つの論点がどう効くかを整理します。

論点	強気 (20.3%)	ベース (50.0%)	弱気 (29.7%)
AI 半導体の爆発的成長	増幅	持続	減衰
カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇	増幅	持続	減衰
期待値飽和	解消へ	持続	増幅
Tan 体制の執行力と AI 連動報酬	持続	持続	不確実
三重の集中リスク	減衰	持続	増幅

ベースシナリオでは「業績は強いまま、期待値飽和も解けない」ため、株価はレンジでの時間調整が続く想定です。強気入りの条件は FY2027 目標の上方修正か第 4 顧客の確定、弱気入りの条件はハイパースケーラの設備投資減速です。確率を加重した期待値は約 302 ドルで、§ 4 の目標株価と整合します。

8.2 反証ボード – 判定を覆す事実セット

事実	関連論点	出現確率 (%)	影響度
Q3 FY2026 決算 (2026-09-04 前後) で FY2027 AI 売上 1,000 億ドル目標が上方修正される、または第 4 の XPU 顧客の量産化が公表される	期待値飽和 – 逆 DCF 6.1% 織り込みと決算急落が示す割高警戒	30	Bull シナリオ (520.37 ドル) へ移行
単独 32% 顧客の次世代案件で内製化・他社移管が判明し、XPU 受注が前年割れとなる	AI 半導体の爆発的成長 – 四半期 +143%・Q3 ガイダンス 160 億ドル、カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇 – AI 基盤の構造的受益者、三重の集中リスク – 単独顧客 32%・TSMC 95%・ソフト減速	15	Bear シナリオ (153.15 ドル) へ移行
ハイパースケーラ 4 社の設備投資ガイダンスが一斉に減速し、AI 半導体売上成長率が前年比 +50% を下回る	AI 半導体の爆発的成長 – 四半期 +143%・Q3 ガイダンス 160 億ドル、期待値飽和 – 逆 DCF 6.1% 織り込みと決算急落が示す割高警戒	20	Base の FCF 系列を下方改定
EU 反トラスト係争で VMware ライセンス慣行の是正命令が出てインフラソフト粗利が悪化する	三重の集中リスク – 単独顧客 32%・TSMC 95%・ソフト減速	15	ソフト側 FCF 前提の下方改定

投資判断を覆す事実セット

注目すべきは、最も出現確率が高い反証 (30%) が「ポジティブ方向」である点です。つまり Watch 判定自体が、3 割の確率で「買い遅れ」になり得ます。これが確信度を「高」ではなく「中」にとどめた理由であり、§ 9 のカタリスト日程を監視し続ける意味でもあります。

8.3 モニタリング KPI

逆 DCF 織り込み永久成長率

6.069% B

単独最大顧客の売上比率

32% A

インフラソフト売上の前年比

9% A

ETHERNET の AI クラスタ向けシェア

66.7% B

これらの KPI が警戒ラインを越えた場合は、シナリオの置き直し（強気・弱気への移行）を機械的に検討します。特に逆 DCF の織り込み成長率は「市場の期待温度計」として、決算ごとに更新する価値があります。

この章のまとめ

- ベース（確率 50%）は「業績堅調 × 期待値飽和の持続」でレンジ調整、期待値は約 302 ドル
- 反証で最も確率が高いのは上方向（FY2027 目標の上方修正、30%）で、Watch の弱点もここにある
- KPI は逆 DCF ・顧客集中 ・ソフト成長 ・Ethernet シェアの 4 本柱。§ 9 で日程に落とし込みます

9. リスク・カタリスト

この章で見えてくること

§ 8 の反証条件と KPI を、実際のカレンダーと構造リスクに落とし込みます。短期（30～90 日）のイベントと、中長期の構造リスクを分けて整理します。

9.1 短期カタリスト（30～90 日）

次回決算（FY2026 Q3、推定）

2026-09-04

四半期末 2026-08-02。発表日は前四半期の間隔からの推定です

2026-06-22

Q2 配当 基準日（0.65 ドル/株）

15年連続増配トラックの確認。利回り0.62%で下値支えは限定的

2026-06-30

Q2 配当 支払日（年率 2.60 ドル）

四半期 FCF 102.6 億ドル を背景に株主還元余力を再確認

2026-08-02

FY2026 Q3 四半期末

次回決算の対象期間締め。AI 半導体 160 億ドルガイダンスの実績確定へ

2026-09-04

FY2026 Q3 決算発表 (推定)

最大の短期カタリスト。連結 294 億ドル (+84%) ・ AI 160 億ドル (+200% 超)。FY2027 1,000 億ドル目標の進捗とソフト再加速が焦点。PER 70 倍で据え置きは失望リスク

各イベントの Broadcom への影響経路を整理します。

- **9月上旬のQ3決算:** 最大の分岐点です。Q3 FY2026 決算 (四半期末 2026-08-02、発表 2026-09-04 前後と推定) **A** で AI 半導体 160 億ドルの達成と FY2027 目標の扱いが試されます (§ 2 ・ § 8 参照)
- **6月下旬の配当イベント:** 配当 0.65 ドル ・ 基準日 2026-06-22 **A**。利回りが低いため下支え効果は限定的ですが、15 年連続増配の継続シグナルです
- **規制関連の動き:** 対中輸出規制の運用変更や半導体関税の適用範囲確定は、業績への直接影響より先にセンチメントへ波及します (§ 6 参照)

FY2026 Q3 決算 — AI 半導体 160 億ドル計画の達成可否と、FY2027 AI 2026-09-04 (推定) 売上 1,000 億ドル目標の上方修正有無。上方修正があれば § 8 の反証 #1 が成立し、判定の見直しに直結します。

高

9.2 中長期の構造リスク

2027-11-01

FY2027 AI 売上 1,000 億ドル目標の達成可否

Q2で据え置き (6/4急落の核心)。AIランレートが1,000 億ドル軌道に乗るかが長期テーゼ最大の検証点

2028-11-01

2025 Tan PSU Award 業績期間開始 (AI Revenue連動、fiscal2028-2030)

CEO報酬がAI超高成長と一致。最大払い出し条件の AI 売上 1,200 億ドルは FY2025 実績の 6 倍超。Tan続投を2030まで制度固定

2027-01-01

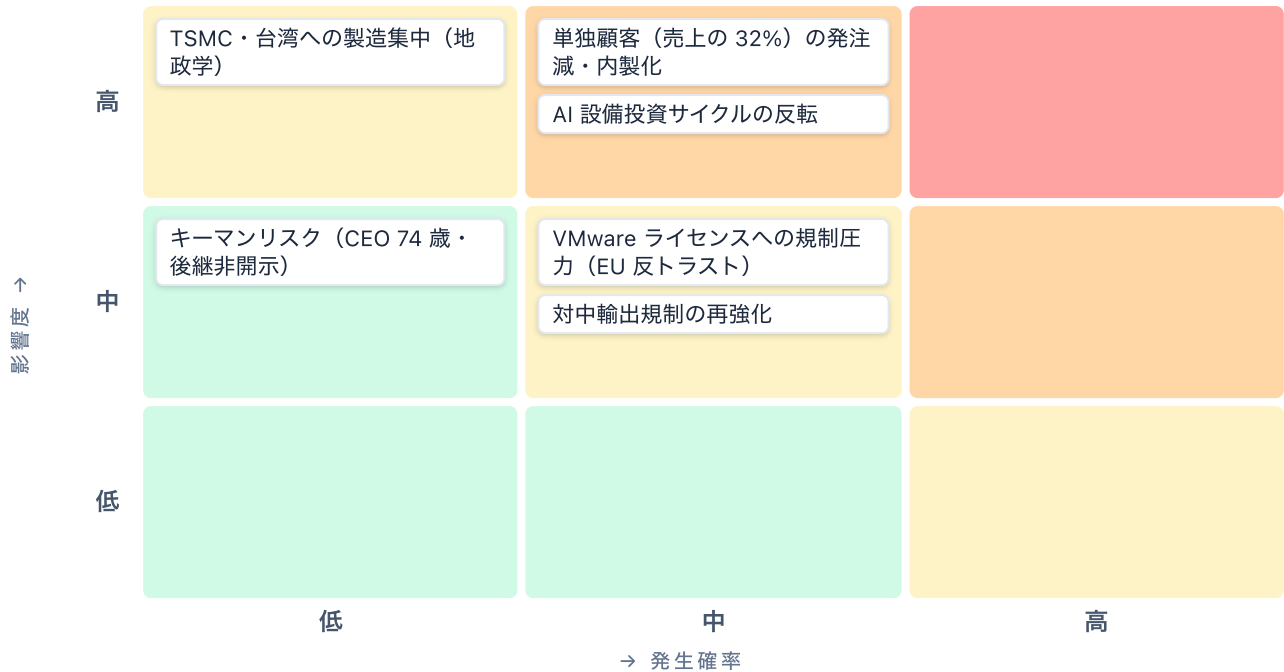
BIS 対中輸出規制 代替規則の公布 (~2027想定)

規則不確実性が継続。中国売上111億ドル(約17.5%) ・ TSMC台湾集中に間接影響

NVLink Fusion・Nvidia-Marvell 連携の進展（継続）

カスタムXPU競争優位の持続性が長期テーズの前提。越境・連携深化が中期最大の競争環境変化

時間軸の長いリスクは、発生確率と影響度のマトリクスで俯瞰するのが分かりやすいでしょう。



このうち最も警戒すべきは顧客集中です。単独最大顧客の比率はFY2023 21%→FY2024 28%→FY2025 32%と毎年上昇 **A** しており、AI半導体が伸びるほど集中も深まる構造です。発注減・内製化・他社移管のいずれが起きても、§4の弱気シナリオ（153.15ドル）への入口になります。一方で、第4・第5の顧客が立ち上がれば、このリスクは成長機会へ反転します。

強気材料と弱気材料を最後に対比しておきます。

強気シナリオ

- 目標株価: 520.37
- AI 半導体の爆発的成長 — 四半期 +143%・Q3 ガイダンス 160 億ドル
- カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇 — AI 基盤の構造的受益者
- Tan 体制の執行力と AI 連動報酬 — ただし 74 歳キーマン依存

弱気シナリオ

- 目標株価: 153.15
- 期待値飽和 — 逆 DCF 6.1% 織り込みと決算急落が示す割高警戒
- 三重の集中リスク — 単独顧客 32%・TSMC 95%・ソフト減速
- Q3 FY2026 決算（2026-09-04 前後）で FY2027 AI 売上 1,000 億ドル目標が上方修正される、または第 4 の XPU 顧客の量産化が公表される
- 単独 32% 顧客の次世代案件で内製化・他社移管が判明し、XPU 受注が前年割れとなる
- ハイパースケーラ 4 社の設備投資ガイダンスが一斉に減速し、AI 半導体売上成長率が前年比 +50% を下回る
- EU 反トラスト係争で VMware ライセンス慣行の是正命令が出てインフラソフト粗利が悪化する

対比から読み取るべきは「材料の数ではなく時間軸の違い」です。強気材料は中長期の構造（市場拡大・寡占・経営力）に、弱気材料は短中期の価格（織り込み・需給・集中）に寄っています。そのため、時間軸を長く取れる投資家ほど、調整を待つ余裕が報われやすい構図と言えます。

この章のまとめ

- 最大の短期カタリストは 9 月上旬の Q3 決算、6/22 配当基準日と規制イベントが脇を固める
- 中長期は顧客集中（32%）と AI サイクル反転が二大リスク、台湾集中は低確率・高インパクト
- § 10 でこれらを論点連鎖として束ね、最終判定と目的別の向き不向きを示します

10. 投資判断

この章で見えてくること

§ 2～§ 9 の論点・シナリオ・リスクを論点連鎖として総合し、§ 0 で先出しした判定を確定します。あわせて、投資目的別の向き不向きとチェックリストを示します。

10.1 目的別の向き不向き

投資目的別の適性

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとこと
グロース 主目的	◎	3～5年	\$302.55 (DCF)	AI 半導体 +143% 成長のコア銘柄でグロース目的に最適。ただし現値はフェアバリューを 28% 上回り、エントリーは調整待ちが前提
インカム (配当)	×	—	—	配当利回り 0.62% は絶対水準が低すぎてインカム主目的に不向き。15 年連続増配だが利回りの厚みがない
バリュー	×	—	—	実績 PER 70.2 倍・フォワード 40.2 倍・PBR 22.85 倍。逆 DCF は永久成長 6.07% を要求しておりバリュー余地は存在しない
クオリティ・ディフェンシブ	○	3～5年	\$378.00 (マルチプル)	営業利益率 39.9%・FCF マージン 42.1%・財務健全性 A と利益の質は最高水準。ただし 3 年ペータ 2.03 でディフェンシブ性は低く、378 ドル以下で妙味

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとこと
イベント・短期	△	数ヶ月～1年	—	決算ギャップダウン直後でボラ拡大中。397～405ドルのサポート帯と442ドルのレジスタンスでレンジが定義しやすいが、方向性確定前でイベントリスクが高い

5つの目的それぞれの適性を説明します。

- **グロース (◎ 最適 / 3～5年)** : AI半導体の構造成長を取りに行く目的には最適な銘柄です。ただし参考フェアバリュー 302.55ドルに対し現値は28%上であり、「銘柄は最適、価格は不適」の状態です。調整局面を待ってからの組み入れが前提となります
- **インカム (× 不向き)** : 配当利回り 0.62% **B** では、いくら増配が続いても配当目的の主役にはなりません。インカム狙いなら他のセクターを当てるべきでしょう
- **バリュー (× 不向き)** : PER 70倍・逆DCF 6.07% 織り込みの銘柄に割安余地はありません。バリュー投資の対象外です
- **クオリティ・ディフェンシブ (○ 妙味あり / 3～5年)** : 利益の質・財務健全性・リカーリング収益は申し分ありません。ただしベータ 2.03と高ボラのため「ディフェンシブ」の名には反します。参考フェアバリュー 378ドル以下まで引き付けられれば妙味があります
- **イベント・短期 (△ 条件付き / 数ヶ月以内)** : 397～442ドルのレンジは定義しやすいものの、決算ギャップ直後で方向性が固まっていません。§7の条件成立を待つ限定参戦です

10.2 判定の確定

長期見通し	スイング見通し
<p>WATCH 確信度 中</p> <p>目標株価 想定保有 302.55 6～18か月</p> <p>業績は絶好調だが現値は超過達成まで織り込み済み、フェアバリューへの調整を待つ局面</p>	<p>様子見 ※2026-06-04 時点</p> <p>決算ギャップダウン直後の方向性未確定・ボラ収束と405ドルサポート帯の攻防確認待ち</p>

<p>判定</p> <p>Watch (様子見)</p> <p>新規エントリーは見送り</p>	<p>確信度</p> <p>中</p> <p>上方向の反証が 30% あるため「高」にしない</p>	<p>目標株価</p> <p>302.55 ドル</p> <p>DCF ベースシナリオ (確率加重とほぼ一致)</p>
<p>想定期間</p> <p>6~18 か月</p> <p>Q3 決算~FY2027 目標の検証完了まで</p>	<p>損切りライン</p> <p>—</p> <p>ポジション非取得のため設定なし</p>	<p>ポジション目安</p> <p>0% (最大 3%)</p> <p>再評価条件の成立後に限定的に検討</p>

判定の論理はこうです。論点「**カスタム XPU 寡占と Ethernet 制覇**」が論点「**AI 半導体の爆発的成長**」を支え、論点「**Tan 体制の執行力**」がその持続性を担保する——ここまでは買いの論理です。しかしながら、論点「**期待値飽和**」がこの全てを株価面で打ち消しており、論点「**三重の集中リスク**」が下振れ時の増幅器として待機しています。強い企業と高すぎる株価が衝突したときは、価格が正されるのを待つのが定石です。

<p>強気 (Bull)</p> <p>520.4</p>	20.3%
<p>中央 (Base)</p> <p>302.6</p>	50%
<p>弱気 (Bear)</p> <p>153.2</p>	29.7%

10.3 投資家のチェックリスト

- ! FY2026 Q3 決算 (9 月上旬) で AI 半導体 160 億ドルを達成したか
- ! FY2027 AI 売上 1,000 億ドル目標が上方修正されたか (されれば判定見直し)
- ! 株価が 397~405 ドルのサポート帯で下げ止まりを確認したか
- × インフラソフト成長率が 2 桁へ回復したか (現状 +9%)
- × 単独最大顧客への依存度が 30% 未満へ低下したか (現状 32%)

チェック項目は § 8 の反証ボードと § 9 のカレンダーに対応しています。複数が同時に「yes」へ変わったときが、判定を Watch から引き上げる局面です。

10.4 スイング判断の再掲

短期の売買についても § 0・§ 7 で示した通り、2026 年 6 月 4 日時点のスタンスは様子見です。急落直後でサポート帯（397～405 ドル）の攻防が確認できておらず、リターンとリスクの比率が安定しないためです。あくまで主軸は長期の判断（Watch、フェアバリューへの調整待ち）であり、スイングは条件が整った場合の補助的な目安にすぎません。

この章のまとめ

- 判定は Watch（確信度: 中）。強い企業と高すぎる株価の衝突は、価格の修正を待つのが定石
- 目的別ではグロース◎（ただし調整待ち）、クオリティ○、インカム・バリューは×
- 専門用語の定義は § 11 用語集、数値の出典は § 12 参考資料にまとめています

11. 用語集

主要用語

PER	株価収益率。株価を1株あたり利益で割った倍率で、利益の何年分まで株価が買われているかを示す。実績利益ベースと予想利益ベース（予想 PER）がある。
ベースシナリオ	複数の将来シナリオのうち、最も実現確率が高いと置いた中心ケース。本レポートでは確率 50% を割り当てている。
XPU(カスタム AI アクセラレータ)	特定顧客専用設計される AI 計算チップの総称。Broadcom はハイパースケーラ向け XPU の最大手で、Marvell と事実上の 2 強構造。
カスタム ASIC	Application Specific IC（特定用途向け集積回路）。誰にでも売る GPU と異なり、1 社のためだけに最適化して設計する。性能効率が高い一方、顧客集中が避けにくい。
Ethernet / InfiniBand	データセンター内でサーバー同士をつなぐ通信規格。InfiniBand は NVIDIA 系、Ethernet はオープン規格で Broadcom が盟主。2025 年に AI クラスタ向けで Ethernet がシェア 3 分の 2 超に逆転した。
CPO(共封装光学)	Co-Packaged Optics。スイッチチップと光部品を同じパッケージに収め、電力効率と帯域を高める次世代実装技術。
ハイパースケーラ	Google・Meta・Microsoft・Amazon のような超大規模データセンター運営企業。AI 投資の主体であり、Broadcom の XPU の顧客層。
DCF / 逆 DCF	DCF は将来のキャッシュフローを割り引いて適正株価を計算する手法。逆 DCF はその逆向きで、「現在の株価を正当化するために必要な成長率」を逆算する。市場の期待値を測る温度計として使える。
WACC	加重平均資本コスト。DCF で将来のお金を現在価値に割り引く際の「割引率」。金利が上がると WACC も上がり、適正株価は下がる。
永久成長率	DCF の最終年以降、キャッシュフローが永久に成長し続けると仮定する率。本レポートのベースは 4.0%。
FCF(フリーキャッシュフロー)	本業の現金収支から設備投資を引いた、自由に使える現金。Broadcom は売上の 4 割超を FCF に変える高効率体質。
ファブドリー	半導体の受託製造業者。TSMC が最大手。Broadcom は自社工場を持たないファブレス企業のため、製造を TSMC に依存している。

ギャップダウン

前日終値より大きく下に窓を開けて寄り付く値動き。高値圏での大商いギャップダウンは天井形成のシグナルとされる。

ATR

Average True Range。1日あたりの平均的な値動き幅。損切り幅の設定など、ボラティリティの物差しに使う。

PSU

Performance Stock Unit（業績連動型株式報酬）。BroadcomではCEOの報酬をAI売上の達成に連動させる設計に使われている。

beat-and-raise

決算で市場予想を上回り（beat）、同時に見通しも引き上げる（raise）パターン。今回のBroadcomはbeatしたが目標をraiseしなかったことが急落の引き金になった。

12. 参考資料

[Tier A 10-Q FY26 Q1 \(avgo-20260201.htm\) - Stock Repurchase Programs ↗](#)

[Tier A AMD Form 8-K Ex-99.1 \(AMD and OpenAI Announce Strategic Partnership to Deploy 6 Gigawatts of AMD GPUs、2025-10-06\) ↗](#)

[Tier A AMD Form 8-K \(ZT Systems acquisition closing、2025-03-31、item 2.01\) ↗](#)

[Tier A AMD FY2025 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\) ↗](#)

[Tier A Arista FY2025 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\) ↗](#)

[Tier A BlackRock Inc 13F-HR 2026-Q1 \(filed 2026-05-13\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, 2025-11-02\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, 2025-11-02\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2021 ended 2021-10-31\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2024\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025 R&D費\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025 営業CF・CapExより算出\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025 売上/売上総利益より算出\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K \(SEC XBRL companyfacts, FY2025\) ↗](#)

[Tier A Broadcom 10-K / Q2 FY2026 8-K \(半期支払利息より年換算推定\) ↗](#)

- [Tier A Broadcom Inc. DEF 14A FY2026 Notice of 2026 Annual Meeting of Stockholders ↗](#)
- [Tier A Broadcom Inc. Form 10-K FY2024 セグメント別売上 \(SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Inc. Form 10-K FY2025 顧客集中度・Significant Customer Information \(SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Inc. Form 8-K Exhibit 99.1 Q1 FY2026業績見通し \(SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Inc. Form 8-K Exhibit 99.1 Q3 FY2024決算リリース \(SAM \\$60-90B説明、SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom IRリリース Broadcom Ships Tomahawk 6 World's First 102.4 Tbps Switch with Co-Packaged Optics ↗](#)
- [Tier A Broadcom Q1 FY2026 決算プレスリリース \(8-K Ex99.1, New Share Repurchase Program, 2026-03-04\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Q2 FY2026 決算プレスリリース BS \(8-K Ex99.1\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Q2 FY2026 決算プレスリリース \(8-K Ex99.1, Hock Tan CEOコメント, 2026-06-03\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom Q4 FY2025 決算プレスリリース \(8-K Ex99.1, First Quarter Business Outlook, 2025-12-11\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom 四半期決算プレスリリース \(8-K Ex99.1: Q4 FY2025 / Q1 FY2026 / Q2 FY2026, ガイダンス vs実績\) ↗](#)
- [Tier A Broadcom 決算電話会議 \(IR webcast/replay, 2026-06-03\)。会社IRで音声replay公開。Q2 8-Kプレスリリースが裏付ける四半期実績ベース ↗](#)
- [Tier A Cisco FY2025 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\) ↗](#)
- [Tier A Federal Register: Implementing Certain Tariff-Related Elements of a Trade and Security Agreement Between AIT and TECRO \(Doc 2026-10571, Commerce/ITA/USTR\) ↗](#)
- [Tier A Federal Reserve - Minutes of the FOMC, April 28-29, 2026 \(released May 20, 2026\) ↗](#)
- [Tier A FMR LLC 13F-HR 2026-Q1 \(filed 2026-05-15\) ↗](#)
- [Tier A Marvell FY2026 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\) ↗](#)
- [Tier A NVIDIA Form 8-K \(Mellanox acquisition closing、2020-04-27、item 2.01\) ↗](#)
- [Tier A NVIDIA FY2026 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\) ↗](#)
- [Tier A NVIDIA Newsroom: NVLink Fusion for semi-custom AI infrastructure \(NVIDIA 公式 IR\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR 13F-HR Vanguard/BlackRock/State Street/FMR \(最新四半期\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR company_tickers \(CIK0001730168\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR Form 4 - Tan, Hock E. \(President & CEO\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR submissions API for CIK 0001730168 ↗](#)
- [Tier A SEC SIC 3674 SEMICONDUCTORS & RELATED DEVICES / 10-K 事業区分 ↗](#)
- [Tier A State Street Corp 13F-HR 2026-Q1 \(filed 2026-05-15\) ↗](#)

- [Tier A U.S. Department of the Treasury - Daily Treasury Par Yield Curve Rates \(10 Yr\) ↗](#)
- [Tier A Vanguard Group 13F-HR 2025-Q4 \(filed 2026-01-29\) ↗](#)
- [Tier A 米商務省 BIS プレスリリース Revises License Review Policy for Semiconductors Exported to China \(2026-01-13\) ↗](#)
- [Tier A 米商務省 BIS プレスリリース Rescission of Biden-Era AI Diffusion Rule ↗](#) [Tier B Barron's ↗](#)
- [Tier B Bloomberg ↗](#) [Tier B Bloomberg ↗](#) [Tier B CNBC ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース Data Center Switch Sales in AI Back-End Networks to Exceed \\$100B \(2025-02-04公開数値\) ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース \(Ethernet vs InfiniBand、industry.md \[^8\] より参照\) ↗](#)
- [Tier B FRED DFEDTARU - Federal Funds Target Range Upper Limit ↗](#)
- [Tier B Gartner プレスリリース 2026年半導体予測 \(GPU/AIアクセラレータ公開数値\) ↗](#)
- [Tier B Gartner プレスリリース Worldwide Semiconductor Revenue Grew 21% in 2025 \(2026-01-12公開数値\) ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B SEMI プレスリリース Global Semiconductor Equipment Billings Reached \\$135 Billion in 2025 ↗](#)
- [Tier B SEMI プレスリリース Global Semiconductor Equipment Sales Projected to Reach Record \\$156 Billion in 2027 ↗](#)
- [Tier B SIA プレスリリース 地域別売上 2025 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(負債・現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(負債・現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(負債・現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(負債・現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価+SEC 10-Q \(負債・現金・株式数\) から算出 ↗](#)
- [Tier B Yahoo Finance AVGO / 8-K 配当より算出 ↗](#) [Tier B Yahoo Finance via ^GSPC 3y 1d ↗](#)
- [Tier B Yahoo Finance via ^SOX 1y 1d ↗](#)
- [Tier B Yahoo Finance via AVGO 3y 1d + ^GSPC 3y 1d, 自前計算 ↗](#) [Tier C Al Jazeera ↗](#)
- [Tier C Crypto Briefing ↗](#) [Tier C Milk Road ↗](#) [Tier C Tom's Hardware ↗](#)
- [Tier C Tom's Hardware ↗](#) [Tier C TrendForce ↗](#)

本レポートは、特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨することを目的としたものではなく、執筆者が個人的に整理した投資調査メモを共有するものです。記載内容は作成時点で入手可能な公開情報に基づいていますが、情報の正確性・完全性・適時性について保証するものではありません。

投資判断はすべて読者ご自身の責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者は一切の責任を負いません。為替変動・流動性低下・規制変更・地政学的事象などにより、想定外のリスクが顕在化する可能性があります。

記載される目標株価・損切ライン・タイムホライズン等は、公開時点での執筆者の見解であり、将来の運用成果を保証するものではありません。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。